

3 「世田谷の地域特性の析出」に関する調査・研究報告書

目次

研究の概要

その1 町内信頼度と地域活動量

- 1 国政調査から見た世田谷区における地域特性の析出
- 2 「地域の生活課題と住民力に関する調査」から見た地域特性の析出

その2 個人の生活と住民力

- 3 地域力としての住民力
- 4 調査の概要
- 5 住民力の構成
- 6 住民力が豊かなのは誰か
- 7 住民力は地域社会への参加と政治参加を高めるだろうか
- 8 住民力は環境配慮行動にも影響している

その3 地域特性と住民力

- 9 住民力の地域特性比較
- 10 住民力の地域間比較
- 11 国勢調査データと住民力
- 12 住民力の集合効果
- 13 知見の整理

参考

研究の概要

中長期的な視野のもと、将来における区の戦略的な政策の設計に寄与するため、国勢調査データを始め、各種指定統計データの活用や独自の統計調査結果をもとに、世田谷の地域特性の析出を行う。また、指定統計のみならず、これまで区で行ったさまざまな統計調査データや各所管課が保有する各地域に関する質的なデータを収集・整理し、所管課の施策立案時の基礎データとして利用可能なデータベースの構築を行う。

まず、本研究は、せたがや自治政策研究所の調査研究活動の基礎と位置づけ、継続して研究を行なう。せたがや自治政策研究所と首都大学東京が協働で、世田谷の地域特性について、国勢調査データを始め、各種指定統計データや研究所独自の統計調査の結果をもとに、世田谷の地域特性の析出を行う。

地域特性の析出に当たっては、社会地図（地図上に地域の社会的特性をマッピングすることにより、地域特性を可視化する技法）という方法を主に使い、地域でどのような人々がどのように生活しているのかを地図に描き出すことで、世田谷という都市空間の特性を分析・把握し、施策立案の基礎データとして役立てて行く。また、世田谷区内で比較した地域特性や広域（東京都や関東など）で見た世田谷の地域特性、時系列でみる世田谷の地域特性などの分析を行う。

また、中長期的な視野のもと、将来における区の戦略的な政策の設計に寄与するため、国勢調査データを始め、既存の各種統計データの収集や各種データベースを整理し、活用を前提とした質的な情報の収集を行う。

研究活動の第1期として、平成19年度からの2年間については、社会地図の作成方法について習得し、主に国勢調査データを活用し、世田谷の地域特性を析出するための社会地図の作成を行った（平成20年度研究報告書参照）。

平成21年度については、せたがや自治政策研究所が、平成20年11月、45歳以上75歳未満の区民8,000人を対象者として実施した「地域の生活課題と住民力に関する調査」について、社会地図を作成した。

この調査の中心的項目は、ネットワーク、信頼、地域活動、集団参加、コミュニティ・モラルである。今回の調査は、「住民力」を測定することを一つの目的として、さまざまな指標を設定し、指標ごとに情報を収集するものである。それらの情報の集計・分析を行い、「住民力」に関する研究報告としてまとめたが、この調査から得られた地域ごとのデータを地図化することで、地域の特性を見ることが可能となる。このため、本調査を基に作成した地図を中心にニュースレターを作成し、所管課の施策立案等の基礎データとして利用してもらうことを目的として区職員向けに配信した。本報告書では、そのニュースレターの内容に、分析に使用したデータの出張所別地図を掲載した形でまとめる。

世田谷区の地域特性と住民力

その1. 町内信頼度と地域活動量

1. 国勢調査から見た世田谷区における地域特性の析出

地域特性の析出においては、これまでの研究から人口学的特性、社会経済的特性、家族的特性が重視されてきた。それぞれの特性に対応する指標として、国勢調査から使用できるものは、以下のようなものである。

<人口学的特性>

年少人口比率 15 歳未満人口 / 人口総数

老年人口比率 65 歳以上人口 / 人口総数

<社会経済的特性>

上級ホワイトカラー率 専門職・管理職 / 就業者数

ブルーカラー率 保安・運輸通信・生産工程・労務作業 / 就業者数

自営業主比率 自営業主数 / 就業者数

戸建率 一戸建世帯数 / 一般世帯数

<家族特性>

核家族世帯比率 核家族世帯数 / 一般世帯数

単身世帯比率 1 人世帯数 / 一般世帯数

これらの指標をもとに、世田谷区の地域特性を析出する上で、特に重要な指標は何であるか、まずこの点を明らかにしていく。

分析の結果、世田谷区の地域特性を考える上で二つの軸が浮かび上がってきた。

第一の軸

- ・年少人口比率、核家族比率と高い正の関係
- ・単身世帯率、自営業主比率と高い負の関係

核家族の割合が高いか低いかな

第二の軸

- ・老年人口比率、戸建比率、上級ホワイトカラー比率と高い正の関係

・ブルーカラー比率と高い負の関係

比較的古くから戸建に住む、上級ホワイトカラーの割合が高いか低いかな

この二つの軸を代表する指標を取り上げ、各出張所・まちづくりセンター地区(以下、「出張所地区」とする)別に地図に投影してみると、以下のような結果が得られた。

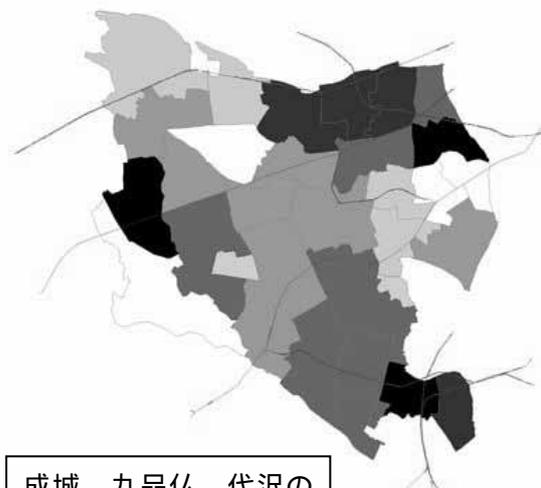
図1 核家族世帯比率



図2 戸建比率



図3 上級ホワイトカラー比率

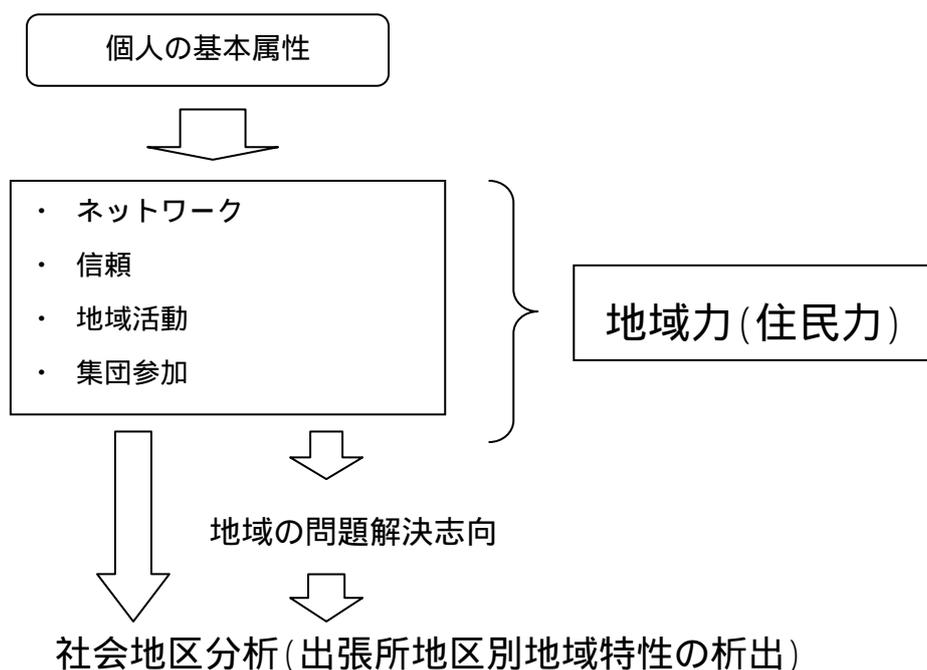


2. 「地域の生活課題と住民力に関する調査」から見た地域特性の析出

2.1 分析の枠組み

今回は集計したデータのうち、町内信頼度に関するデータ及び地域活動量に関するデータを、出張所地区別に表示して紹介していく。

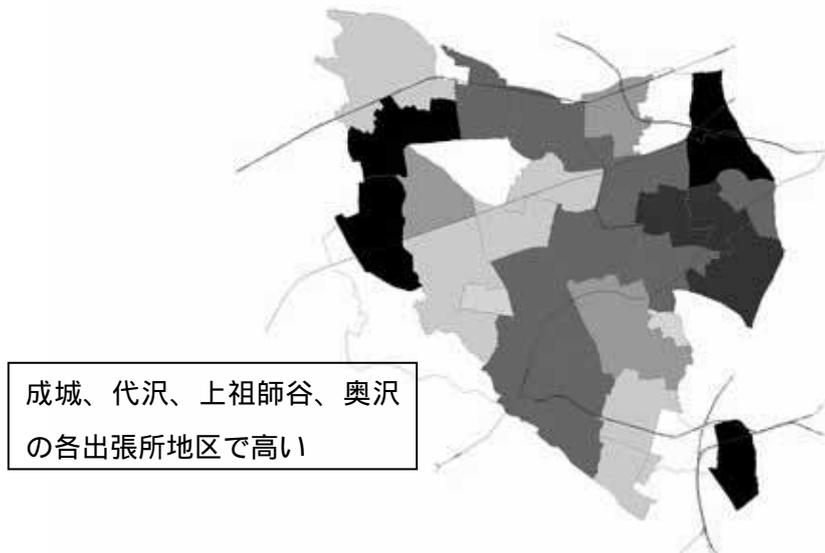
< 分析の枠組み >



2.2 町内信頼度

「あなたは、町内にお住まいの方々について、どの程度信頼できると思いますか。それとも信頼できないと思いますか」という設問を用意し、その回答をそれぞれ9段階に分け、1がもっとも低く9がもっとも高くなるように点数を与え、「町内信頼度」という指標を作成した。

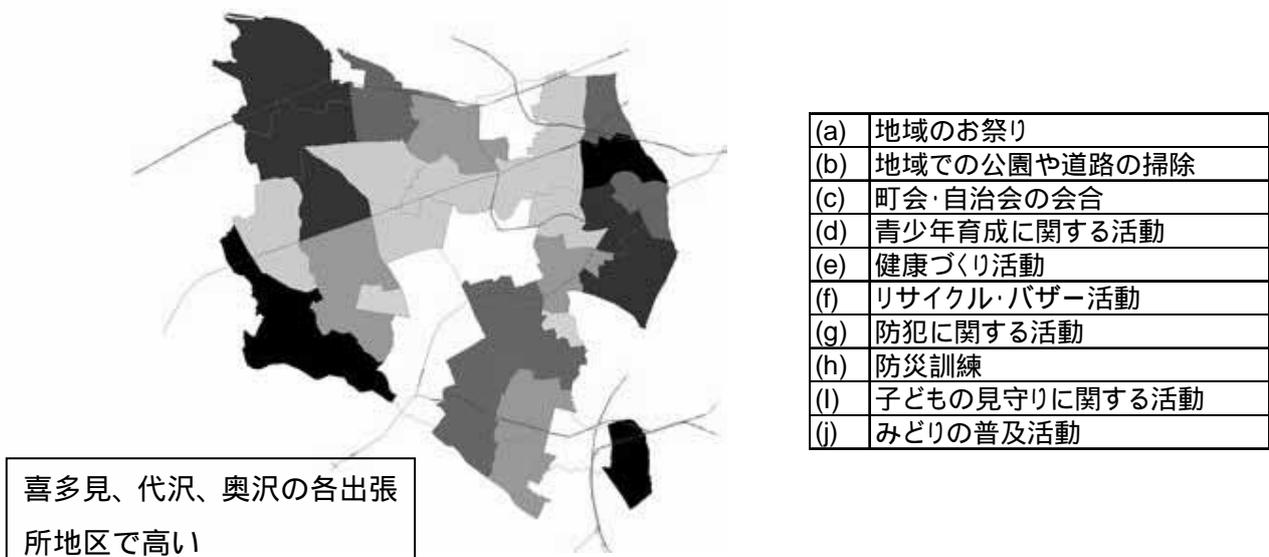
図4 出張所地区別町内信頼度



2.3 地域活動量

下表にあげる(a)～(j)の活動項目ごとに、「必ず行く・参加する=3点」「できるだけ行く・参加する=2点」とし、「あまり行かない・参加しない」「行ったことがない・参加したことがない」の二つを0点として全項目を合計し、地域での活動参加の度合いを示す「地域活動量」という指標を設定した。全体の平均は2.96となっている。

図5 出張所地区別地域活動量



その 2 . 個人の生活と住民力

その 1 では、町内信頼度と地域活動量という 2 つの項目を中心に世田谷区の地域特性との関連をみてきた。その 2 からは調査で得られた様々な項目を加えて「住民力」という指標を作成し、そのはたらきを調べてゆく。その 2 は、次の二点について分析を行った結果を紹介する。

A「どのようなタイプの人が住民力に恵まれているのか」

B「住民力は個人の意識や行動とどのように関わっているか」

3 . 地域力としての住民力

地域力（地域空間に蓄積する資源の総体）の一部として
住民力（住民の社会関係的資源と地域社会への信頼）を考える

地域資源というと、観光資源や商業施設など、地域空間に存在する物理的な資源に目がむきがちである。しかし、ある地域がもつプラスのイメージや、ある地域における人々の暮らしの活気などは、目には見えなくてもその地域固有の資源だと考えることができる。まさしくこのような「目に見えない資源」のひとつとして、住民たちがお互いに取り結ぶ関係の豊かさと地域への関わりを、ここでは「住民力」と呼んでいる。

この住民力を測定するために、区民を対象とした標本調査を実施した。

4 . 調査の概要

調査時期：平成 20 年 11 月

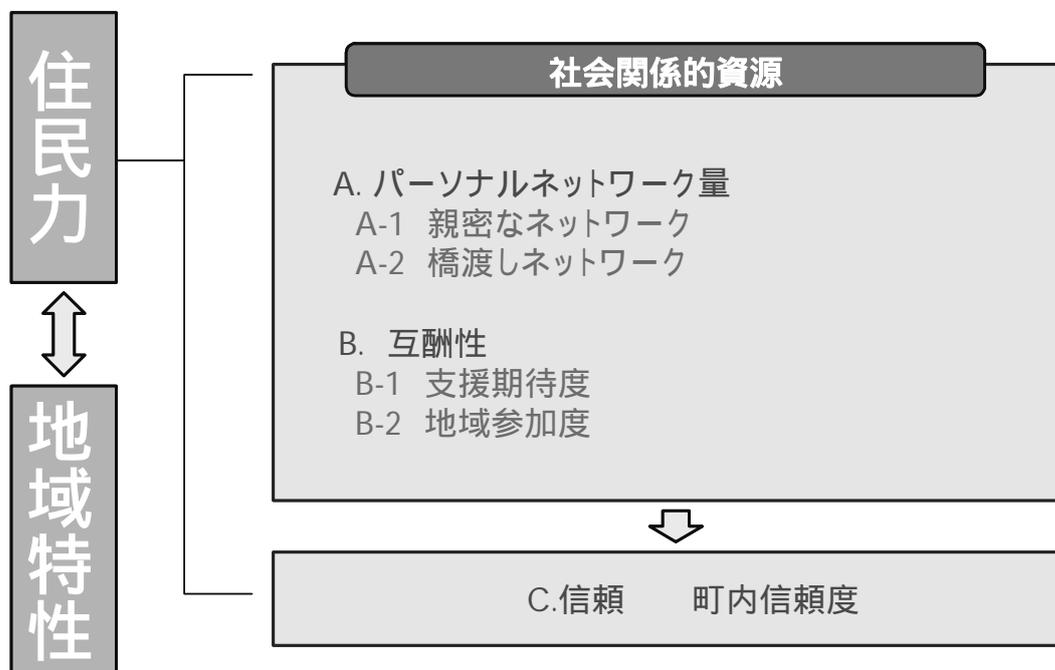
調査方法：郵送配布・郵送回収（無記名）

調査対象：45 歳以上 75 歳未満の世田谷区民 8000 名を無作為抽出

回収率：有効回収票 5225 票（有効回収率 65.3%）

5. 住民力の構成

図6 分析イメージ



「社会関係的資源(ネットワークの豊かさ)」が地域の人々に対する「信頼」を高める。両者をあわせて「住民力」と考える。

A 1 : 親密なネットワーク・・・親しい親族・友人・近隣の量

A 2 : 橋渡しネットワーク・・・有力者などとのネットワーク量

B 1 : 支援期待度・・・生活課題の達成において支援を期待できる程度

B 2 : 地域参加度・・・地域活動への参加の程度

C : 町内信頼度・・・町内の人々に対する信頼の程度

A 1 ・ A 2 ・ B 1 ・ B 2 を合計したものが「社会関係資源量」となり、「社会関係資源量」とCを合計した指標が「住民力」となる。

住民力は地域特性と関わりあう

図6は、分析をすすめた結果、その1と分析イメージの組み替えを行った。

6. 住民力が豊かなのは誰か

表1 社会関係資源量・住民力と個人属性（重回帰分析）

従属変数：社会関係資源量（最小値1，最大値29）

独立変数	係数
年齢	-0.004
現住所居住年数	0.131 ***
配偶者の有無	0.145 ***
大卒の有無	-0.047 **
三世帯世帯	0.066 ***

調整済R二乗=0.45 ***

従属変数：住民力（最小値2，最大値38）

独立変数	係数
年齢	0.005
現住所居住年数	0.120 ***
配偶者の有無	0.153 ***
大卒の有無	-0.048 **
三世帯世帯	0.064 ***

調整済R二乗=0.45 ***

*** p<0.001, ** p<0.01

分析の結果、住民力は「居住」と関連の高い指標であることがわかった

結婚している人、三世帯世帯の人、地域に長く住んでいる人ほど住民力が高い

7. 住民力は地域社会への参加と政治参加を高めるだろうか

地域社会への参加・・・コミュニティ・モラル

（地域への愛着）

（地域での活動意欲）

政治参加・・・・・・・・投票行動の頻度

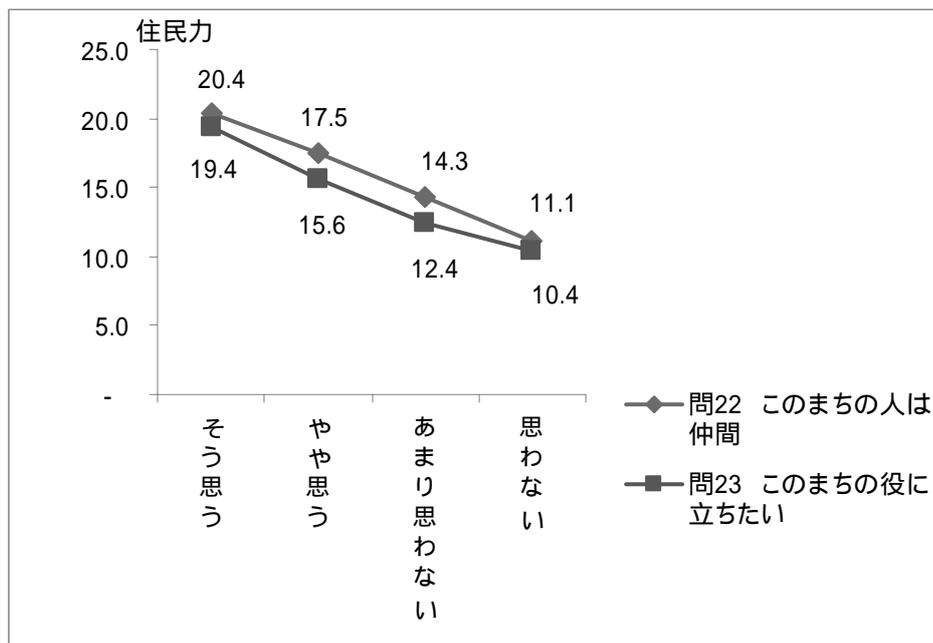
以上の指標と住民力の関係をみてゆく。

7.1 住民力とコミュニティ・モラル

「このまちの人は仲間だという気がしますか」

「このまちの役に立ちたいと思いますか」

図7 コミュニティ・モラルと住民力の関係

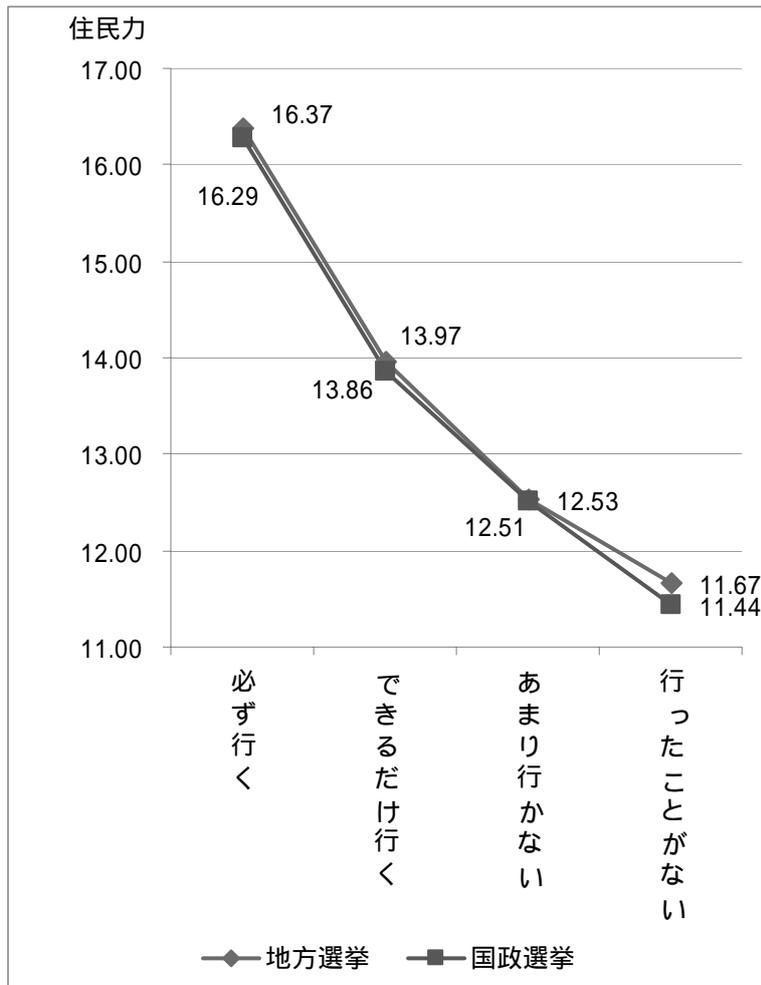


住民力が高い人ほど、コミュニティ・モラル（「このまち」への愛着と活動意欲）が高い

7.2 住民力と投票行動

「国政選挙と地方選挙の投票への程度行くか」

図8 投票行動と住民力の関係



住民力の高い人ほど、国政選挙・地方選挙いずれも投票に行く傾向が強い

8 住民力は環境配慮行動にも影響している

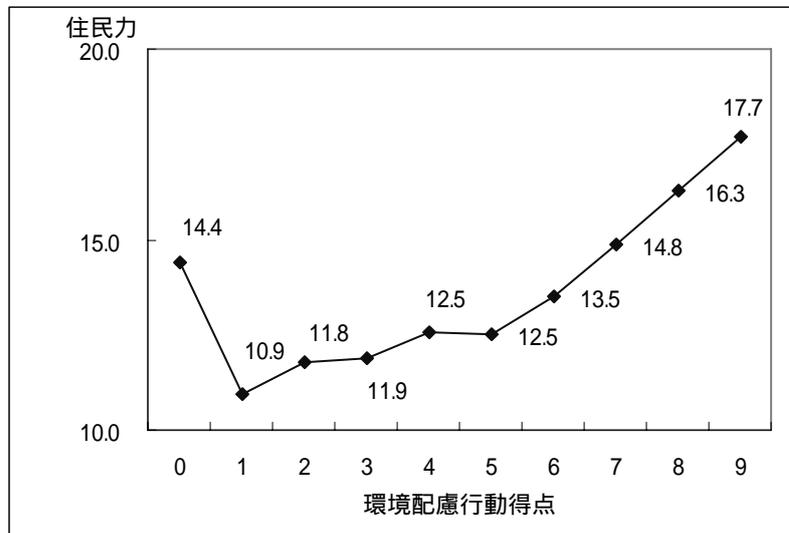
環境への配慮と住民力との関係を見る。

環境配慮行動得点・・・下記項目に「はい」と回答した合計（計9点）

表2 環境配慮行動項目

・	日常生活で節電に努めている
・	冷房や暖房に気をつけている
・	家電の購入では省エネタイプを選ぶなどエコマークの付いた商品を購入する
・	2～3割高くても天然素材などの良質なものを選ぶ
・	日常生活でなるべくごみをださない
・	ごみの分別やリサイクルに協力する
・	買い物で過剰包装を断る
・	地域の美化やみどりの活動に参加する
・	環境学習に参加する

図9 環境配慮行動得点と住民力の関係



零点をのぞき、住民力の高い人ほど環境配慮行動の合計も高い

以上の分析から、住民力の高さは個人の意識や行動と深く結びついていることがわかった。
次に、住民力と地域の特性がどのように関係しているのかをみてゆきたい。

その3．地域特性と住民力

その2では、住民力は個人個人でどのように違っているのか、また、個人に住民力はどのような影響をおよぼしているのかという点について考察した。その3では、地域に根ざした力である住民力が、地域特性とどのように関連しているのかという点に注目して分析を行う。

9．住民力の地域間比較

表3 出張所地区別の比較

出張所	社会関係資源量	住民力
池尻まちづくり出張所	9.77	15.81
太子堂出張所	9.57	15.81
若林まちづくり出張所	9.75	15.79
上町まちづくり出張所	9.02	14.99
経堂出張所	9.36	15.13
下馬まちづくり出張所	10.44	16.83
上馬まちづくり出張所	9.87	15.90
梅丘まちづくり出張所	9.59	15.12
代沢まちづくり出張所	11.08	17.01
新代田まちづくり出張所	9.23	15.08
北沢出張所	10.28	16.28
松原まちづくり出張所	8.82	14.60
松沢まちづくり出張所	9.65	15.68
奥沢まちづくり出張所	10.73	16.96
九品仏まちづくり出張所	9.48	14.98
等々力出張所	9.85	15.57
上野毛まちづくり出張所	9.30	15.43
用賀出張所	8.67	14.60
深沢まちづくり出張所	9.77	15.82
祖師谷まちづくり出張所	10.23	16.06
成城出張所	9.65	15.77
船橋まちづくり出張所	8.65	14.43
喜多見まちづくり出張所	10.46	16.14
砧まちづくり出張所	9.69	15.54
上北沢まちづくり出張所	9.62	15.64
上祖師谷まちづくり出張所	9.98	16.04
烏山出張所	9.38	15.14
合計	9.60	15.54
F値	1.60	1.50
	*	*
	n=4539	n=4002

* p<0.05

社会関係資源量・住民力とも、地域差がある。

注：表中の「まちづくり出張所」は現在「まちづくりセンター」に名称変更しているが、ここでは調査時点（平成20年11月）での名称で示している。

10. 住民力の地域間比較

図10 社会地図「住民力」1・・・6段階に色分け



色の濃い地区で住民力が高い

図11 社会地図「住民力」2・・・高い3地区と低い3地区



高い・・・代沢・下馬・奥沢
低い・・・松原・船橋・用賀

1 1 . 国勢調査データと住民力

地域の諸特性と、住民力はどのように関わっているか。

国勢調査から得られたデータをもとに地域の特性を割り出し、特性と住民力との関係を見る。

表 4 国勢調査データと住民力の重回帰分析結果

	住民力
人口総数	-0.389 *
年少人口比率	-0.045
老年人口比率	0.309
単身世帯率	-0.012
核家族比率	0.000
戸建比率	0.455 **
持ち家比率	-0.218
上級ホワイト率	0.092
ブルーカラー率	-0.004
自営業主比率	0.265

** p<0.01, * p<0.05

2005年国勢調査データより作成

- ・ 人口の多い地区ほど住民力は低い
- ・ 戸建比率の高い地区ほど住民力は高い

一戸建ての立ち並ぶ古くからの住宅街において住民力は高く、
住民移動の活発な人口の多い地区で低くなる傾向がある

図 12 人口

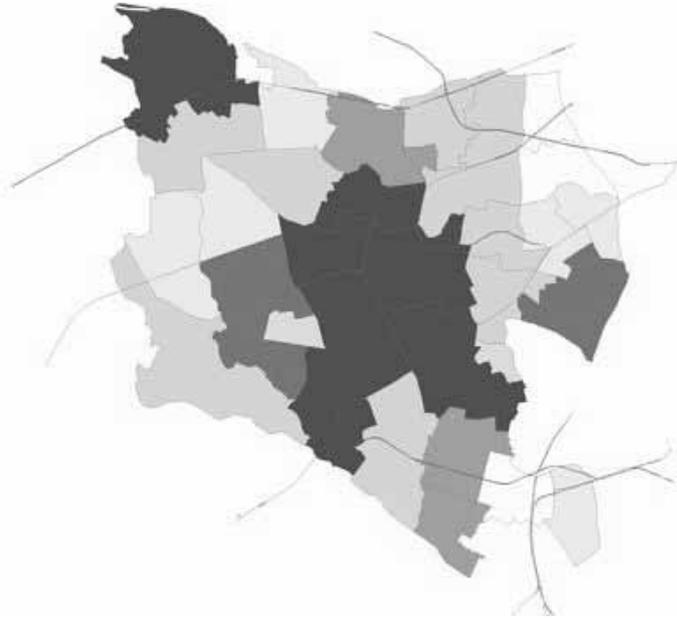
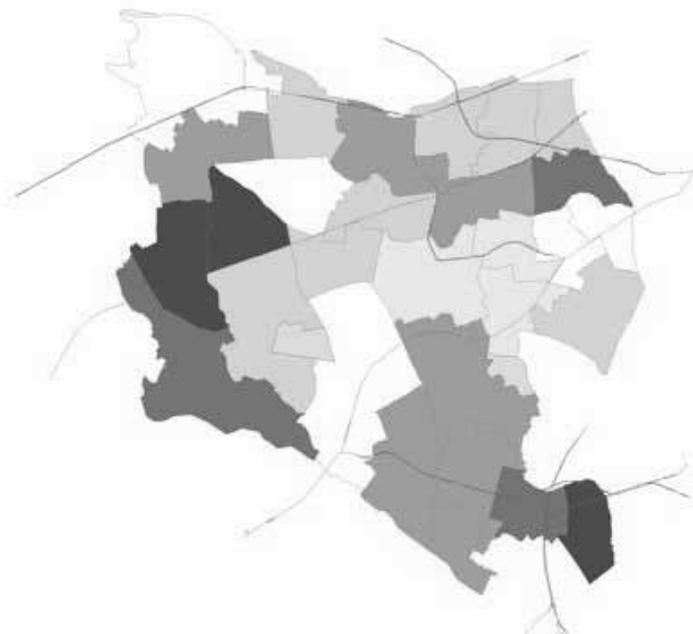


図 13 戸建率



住民力の低い地区で人口が多く、住民力の高い地区で戸建率が高い

1 2 . 住民力の集合効果

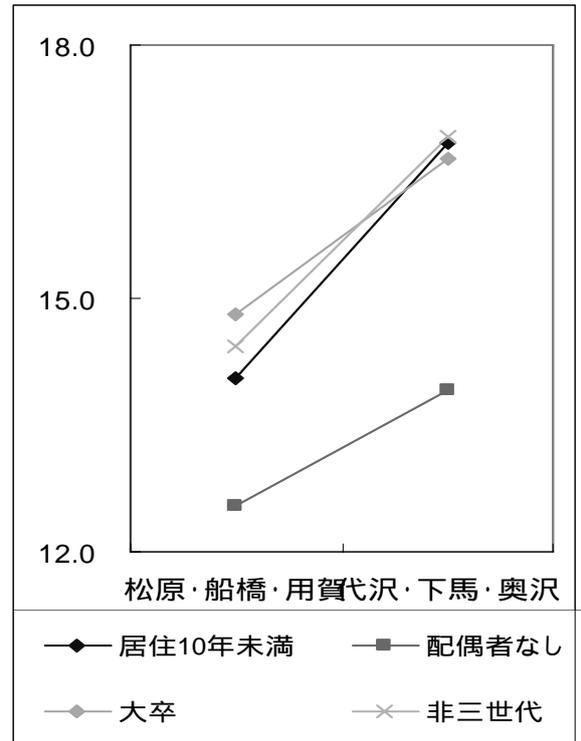
住民力は人によって有利不利があった。

「不利な人々」の住民力を地区平均の高い3地区と低い3地区で比較してみる

表5 「不利な人々」の住民力比較

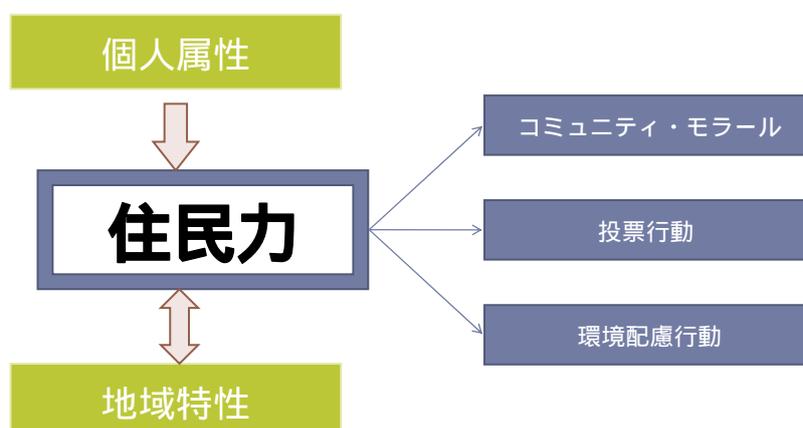
	松原 ・ 船橋 ・ 用賀	代沢 ・ 下馬 ・ 奥沢	n
居住10年未満	14.0	16.8	153 **
配偶者なし	12.5	13.9	204
大卒	14.8	16.7	469 **
非三世代	14.4	16.9	858 ***

*** p<0.001, ** p<0.01



住民力の高い地区では「不利な人々」の住民力も押し上げられている

1 3 . 知見の整理



- ・ 個人の属性により住民力の豊かさは異なる
- ・ 住民力は個人のコミュニティ・モラル、投票行動、環境配慮行動などに影響を与えている
- ・ 地域の住民力の高さは「有利な人々」の多さに依存するが、同時に「不利な人々」の住民力を押し上げる力をもっている

参考

本研究においては、本文中にもあるとおり、2008年に実施した調査をもとに、「世田谷区の地域特性と住民力」をテーマとして分析を進め、ニュースレターとして庁内職員向けに定期的に配信を行った。ここでは、分析等で使用した指標について、2008年に実施した調査及び2009年に実施した調査の結果を出張所地区別に社会地図化し、地域ごとの差を可視化したものを参考として紹介したい。ここでは統計上有意な差がみられたものを地図化して掲載する。

2009年調査の概要

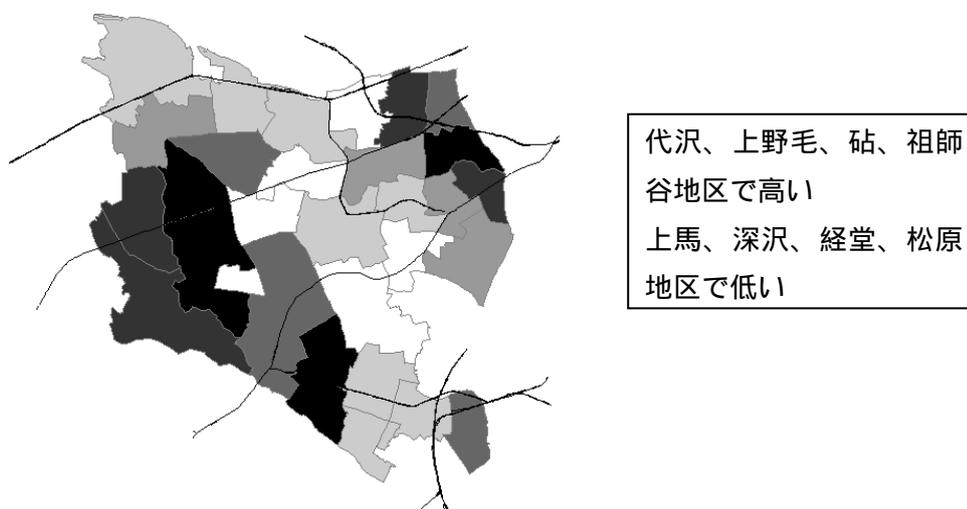
調査時期：平成21年9月

調査方法：郵送配布・郵送回収（無記名）

調査対象：20歳以上75歳未満の世田谷区民10,000名を無作為抽出

回収率：有効回収票5447票（有効回収率54.47%）

このまちの役に立ちたいと思いますか - 「そう思う」と回答した割合



2009年調査データより作成

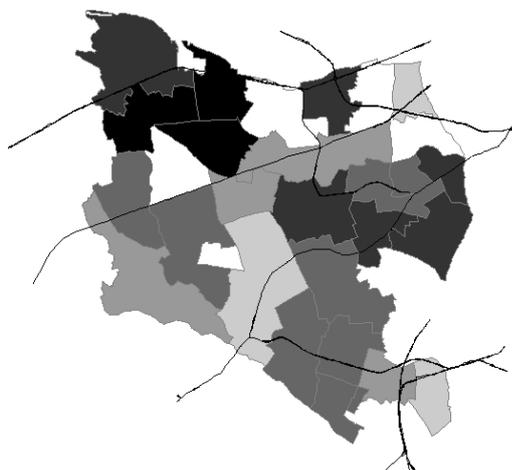
居住 10 年未満の割合



船橋、用賀、成城、深沢
地区で高い
九品仏、太子堂、上野毛、
上北沢地区で低い

2008 年調査データより作成

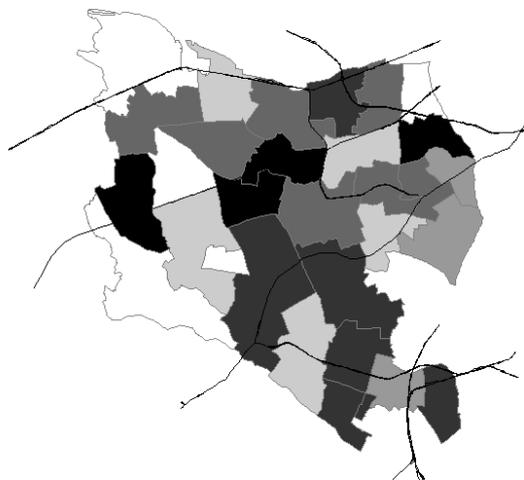
非三世代世帯の割合



船橋、上北沢、上祖師谷
地区で高い
祖師谷、新代田、松沢、
代沢地区で低い

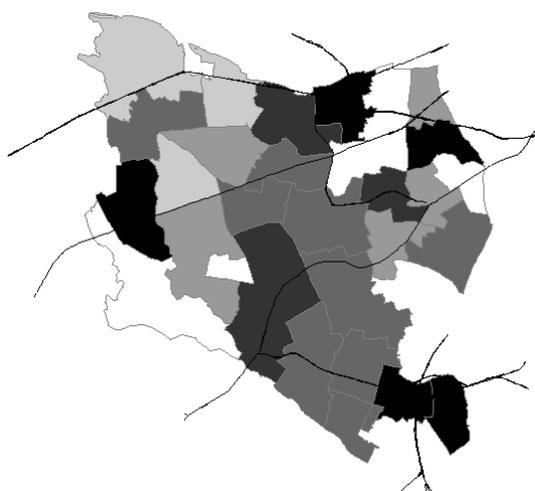
2008 年調査データより作成

大卒の割合



成城、経堂、代沢地区で
高い
喜多見、北沢、烏山、祖
師谷地区で低い

2008年調査データより作成

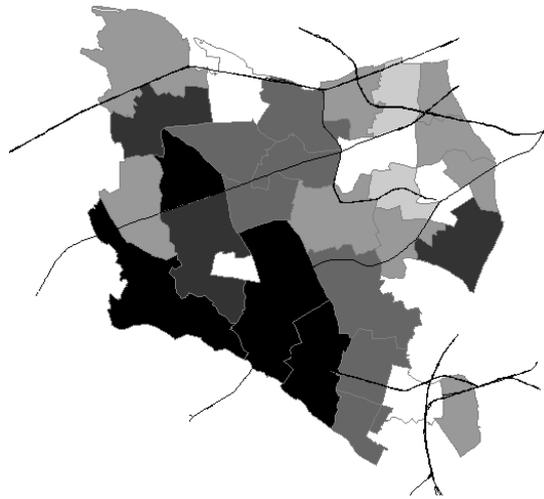


奥沢、成城、九品仏、代
沢、松原地区で高い
喜多見、新代田、池尻、
梅丘地区で低い

2009年調査データより作成

2008年調査と2009年調査で大きな差はみられない

環境配慮行動得点平均値



上野毛、喜多見、用賀、
祖師谷地区で高い
太子堂、上北沢、九品仏、
梅丘地区で低い

2009年調査データより作成